

鶴ヶ島市附属機関会議録

【開催概要】

会議名	令和6年度第4回鶴ヶ島第一小学校学校運営協議会
日時	令和7年2月12日（水曜日） 9時35分～10時20分（授業参観） 10時30分～11時50分（協議会）
場所	鶴ヶ島第一小学校 校長室
出席委員	熊谷茂会長、内野和江委員、串田功委員、奥隅侑子委員 三上光江委員、西尾佑貴委員、竹島康史委員、池野孝委員 吉澤充委員（鶴ヶ島第一小学校長）
欠席委員	古賀慎哉委員、町田尚司委員、坪山玲緒奈委員
事務局	松本靖久教頭、浅見里沙学校事務
議題	【協議】 (1) 学校関係者評価の説明と意見交換（事務局） (2) その他
配布資料	資料1 令和6年度第4回学校運営協議会次第 資料2 令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 資料3 鶴ヶ島市学校運営協議会員 申込用紙 資料4 第5回学校運営協議会開催通知 資料5 令和6年度第78回卒業式について（御案内）
公開・非公開	公開
傍聴人数	0人
会議要旨	令和6年度学校評価結果の意見交換

【議事概要】

議題(1) 学校関係者評価の説明と意見交換

<事務局>

学校評価の趣旨と、その取組を通して期待されることの2点を説明。資料2を参考に事務局から抜粋して結果を報告。その後、委員から意見をいただいた。

<委員>

6頁。子どもが在籍しているので、保護者目線で意見を申し上げる。保護者は肯定的な回答が約8割いる。集団で生活していれば、大人になってもトラブルはつきものであると感じる。学校でも当然トラブルはあると考えている。実際、我が子も友達とささいなことで喧嘩してしまい担任の先生に対応してもらったことがある。ささいなことでも初期段階で電話連絡をいただき、さらに今後どう対処していくのかの見通しを言っていた。このことで担任の先生に対する信頼は、厚くなった。初動の対応を保護者へ周知することを行っていただければ、否定的な回答をした保護者の2割も肯定的な回答へ繋がると考える。

<委員>

8頁。児童は、それぞれに特性を持っている。保護者との連携は欠かすことはできない。保護者との信頼関係を築いて、児童の成長や指導を促すためにも、こまめな連絡は必要と考える。そして、周囲の児童のかかわり合い方もとても大切である。お互いに成長につながっていく。一人一人の触れ合いが特別支援学級に対しても、もっと肯定的な考えになっていくと考える。

<委員>

9頁。今年度は、学校からの働きかけが、地域の応援団員の増員になった要因である。働きかけることによって、各自が学校教育への参画意識を持つことにも繋がる。引き続き働きかけをお願いしたい。

3頁。授業の内容は工夫されて良くなってきているように感じた。保護者にも良くなっているという認識を持っていただく事が課題である。今日見た授業を実際に参観で行っているのであれば、保護者の方にも伝わるはず。学級経営も保護者が認識していただく必要がある。そうすればおのずと1頁の評価も高くなると考える。授業参観等で担任の先生方が保護者へ説明し働きかけるべきと感じた。

<委員>

4頁。ICT大型モニターの活用は、深い知識を持って視野を広げていけると感じた。メリット・デメリットの心配はあるが、現況の課題は変わっていくと思うので適宜対応していったほしい。考察力の育成や達成感の喜びを味わう体験を希望する。安易に生成AIの活用で答えを導き出すやり方ではなく、これから多面的に指導をしていったほしい。

5頁。体育指導・体力の面では、行事を通して（運動会や持久走大会など）精神的成長が見られている。保健的な健康維持のためにも家庭との連携で食事・睡眠も指導してほしいと希望する。

10頁。家庭やいじめの問題等で喫緊の課題は山積みだろう。管理職は、先生方の負担を減らせるように、適正な働き方改革を進めてほしい。協議会としても何か役に立てればという思いがある。

<委員>

2頁・6頁。教職員は肯定的100%だが、児童・保護者は肯定的100%ではない。100%としている教職員に教わっている児童、また関わっている保護者は良いと思っていない。このズレをあまり良い状況と思わない。仮に教職員が否定的な結果を出した場合には、その教職員に対し管理職が理由を聞く等相談しやすい環境であってほしい。そうでないと否定的な意見を発言しづらい状況になりかねない。それは学校が良くならないので、無しにしてほしい。今回の結果は、教職員からも否定的な意見があると、少し安心できると感じていたところである。

10頁の働き方改革として、学校側が文科省や教育委員会に対して評価する機会はあるのか。調査等に追われて学校の働き方が進んでいないと言われている。児童や授業に係ることに時間をかけてほしい。時間がないのに早く帰りなさいということは筋がおかしい。教職員が大変になっているのであれば、私たち委員にお手伝いさせてほしい。何かできることがあったら教えてほしい。

<委員>

6 頁。いじめ等は国の調査がある。何件あって何件解決したか、本校での客観的な調査結果を示していただけると、委員は評価しやすい。口頭でも構わない。

10 頁。在校時間の短縮のために仕事を持って帰っては本末転倒である。相対的な課題は何なのか、突き詰めて考えてほしい。代わりの先生がいないとの報道もある。学校からも様々な支援をするボランティアが来てくれるような働きかけをしてほしい。

<委員>

2 頁。学童には1クラスの半分ほど来ている。縦に関わりがあるのが楽しいようである。「学童へは行きたいけれど、学校には行きたくない。なんで行きたくないのかは、学校の先生に言いたくない。」という児童も散見される。理由の一つは、友だちとのいざこざが原因のこともある。その児童が抱えていることを先生は分かっていないように感じる。教える授業以外に休み時間の遊びや、給食の時間等でのちょっとした児童の変化に先生が気付いてほしい。先生がそれらの場面ですぐに関わってくれば、解決することは多いと感じる。また、先生から保護者に「最近、どうですか？」と話せば保護者も言いやすくなると感じる。関わりがあれば、児童の抱える様子や気持ちの変化は初期段階で気付けるはずである。

<委員>

1 つ目は先生方の健康管理が最優先。それなくして、児童に色々なことを教えられない。2 つ目は1 頁。教育目標は校長室にもあって分かる。教育方針は忘れてしまったので、掲示しておくとうい。

<事務局>

これらを事務局でまとめて評価・分析を行っていく。

<会長>

質問事項や追加の意見等はあるか。

<校長>

●鶴一検定(授業参観の感想を受けて)

去年は企画会段階で頓挫してしまった。今年度からの取り組みである。学校は理解に時間のかかる児童に対しての支援・指導は上手である。これからは、理解力のある児童を、どれだけ引き上げることできるか重要だと考えている。鶴一検定では、見ていただければ分かるが、中学校の問題まである。ある学年の児童が、どの学年の問題に挑戦してもよい。その学年に合格すれば認定証がもらえる。現在、中学3年生の問題に合格した児童が何人かでてきている。学習指導要領は最低限の学習内容を示したものである、どんどん上位学年の学習内容を合格するようにと働きかけている。それが鶴一検定である。

●PCの活用(授業参観の感想を受けて)

PCの活用については、3年生頃からローマ字入力の練習が始まっている。コンピュータと入力対戦ができ、勝つことが面白くて一生懸命覚えている児童もいる。また、6年生の中には書くことよりタイピングが速い児童もいる。

●対話的という話で。

自分から意見を発言することが学習指導要領でも求められている。

【—主体的・対話的で深い学び—】として【主体的・対話的】について、説明することがある。それは、自立と孤立についてである。自立した児童を育てることが大事。自分で何でも一人でやることは孤立。孤立は自立にはならない。自立とは、助けて・教えてなど他の人に言えることである。また、本校は、児童が黒板に向かう隊形で学習をあまりしていない。前の児童は、後ろの児童が見えない。これでは、児童の意欲継続に限度がある。そこで本校は、コの字隊形で学習をしている。全員が、取り組んでいる児童の姿を見ることができる。そして、互いを意識して学習に取り組めるようになる。その成果として、高学年では、タブレット端末を活用してプレゼンなどができるようになってほしい、という思いで計画的に指導をしている。その成果が出ているのかは分からないが、あきらめないで意図的にやっていくしかないを考える。

●保護者に向けて授業の説明を発信したほうがいいのでは。

懇談会になると帰ってしまう保護者がいる。懇談会へ行くと何か面白いことやためになることがある、という意識をもってもらえるよう教職員へ指示している。例えば、担任が今の授業はこういう意図がある、こんなクラスにしていきたいと説明するだけで保護者の見る視点が変わる。4月の懇談会では、校長から経営方針を話しているが、理解されていない結果となっている。懇談会をイベント化していきたい。アンケート結果でこういう形になるのが残念であり、反省すべきことだと認識している。こちらが努力・働きかけをしなければならないと感じる。

●働き方

調査等については、ある程度はやらなければならない。教育委員会も考えて、調査等の依頼をしている。気になることがあれば教育長へ話すこともできる。このアンケートについては負担にはならず、むしろ必要だと感じている。私も教員も独りよがりのところがあるので、アンケートを通して客観的に把握する必要がある。管理職は教室を見回りながら教員を指導していくことも仕事である。それをしながら、2頁の否定的な児童を拾うのが私たちの責任である。いままでも今年も教員へ指導は散々やってきている。このアンケートがなくなると、気付くこともなく、坦々と1年が過ぎていくだけである。自分の教育を振り返る良い機会であると考えている。